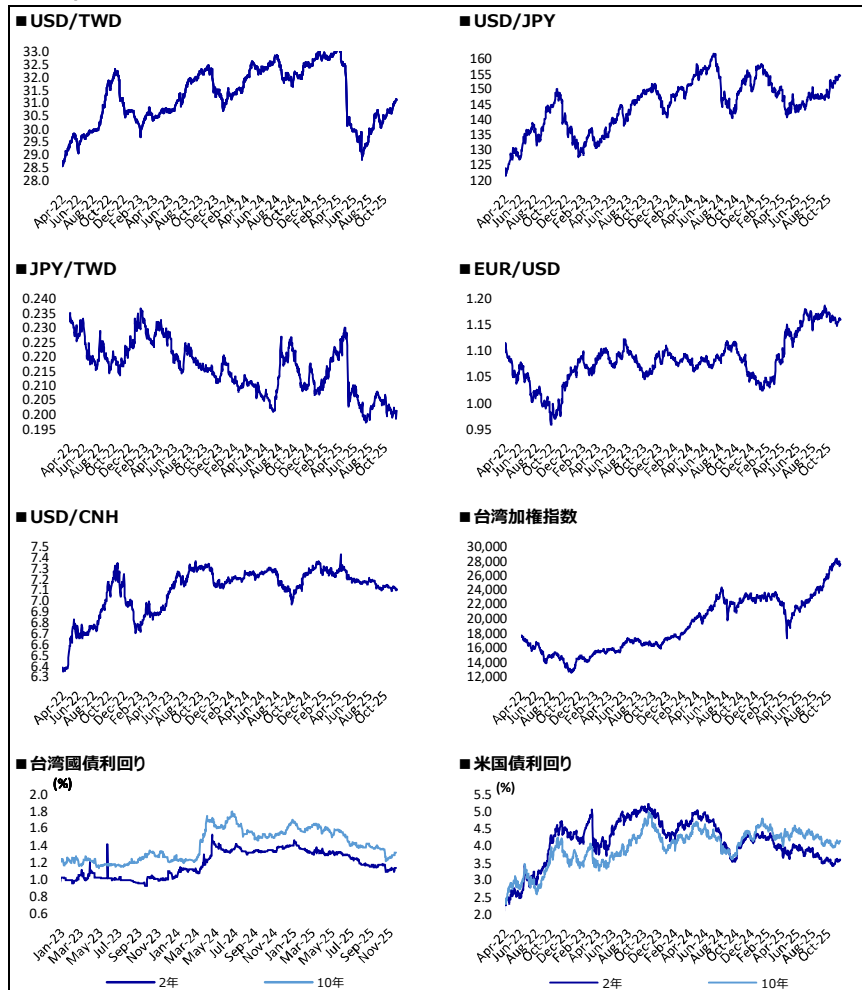


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のUSD/TWDは上昇。週初の10日は31.020でオープン。台湾株の反発や、輸出企業によるドル売りで一時的にドル安となったが、午後には大口の石油関連の買い需要で再び31元台に戻り、終値は31.008。11日は米国政府閉鎖リスクの緩和報道で台湾株が上昇し、USD/TWDは一時30.952まで下落。午後には株安と外資・投信の資金流出で31.052で終了。12日は台風で多くの地域が休業となり、取引は閑散。株価は上昇したが、外資の資金流出でUSD/TWDは31.071に達し、終値は31.069。13日はアジア通貨が軟調で、外資の流出が続き、USD/TWDは31.100を試し、終値は31.081。14日は米株安の影響で台湾株が急落、外資のドル買いが強まり、輸入企業も追随。午後米株安とドル買いが続き、台湾ドルは半年ぶり安値更新、31.150でクローズ、週間を通じて、外国人投資家の株式売り越し額は合計981.8億台湾ドルとなった。

■ USD/JPY
先週のUSD/JPYは上昇。週初の10日は米政府機関再開への期待でドル買いが強まり、153.77円でオープン。その後も日本株の堅調さに支えられ、154円台で底堅く推移。11日はドル買いが続き154円台半ばまで上昇したが、日本株安で154円台前半に調整。米雇用統計の弱さで一時的に153円台後半まで下落したが、再び154円台を回復。12日は円売りが優勢となり、海外時間で155.05円の高値を付けたが、米金利の反落で154円台後半に戻った。13日、ドル/円は米政府機関閉鎖解除を背景にドル買い優勢となり、155円ちょうど付近まで上昇。海外時間は米株安が重なり154円台半ばを中心に推移した。14日、米株下落の動きにつれ一時1円程度の下落幅となったが、最終的には前週比0.7%ドル高円安の154.53で先週の取引を終了。

■ USD/TWD 予想レンジ：30.800-31.300
今週はUSD/TWDの値動きが大きくなると予想。先週金曜日、台湾とアメリカが初めて為替に関する共同声明を発表。不公平な競争のために為替を使わない、介入は大きな変動時のみ、という内容。短期的にパニック的なドル売りが出て、台湾ドルが強くなる場面も考えられるが、中央銀行の市場介入にも注目。

■ USD/JPY 予想レンジ：152.50-156.50
今週のUSD/JPYは高値圏で底堅い動きが続く予想。米金利は12月利下げ期待の後退で上昇圧力が強まっている一方、円金利にも上昇圧力がかかっている。金利差の観点からも、しばらくUSD/JPY大きな方向感はいく状況となりそう。

今週の予想

11/17 (MON)	日本第3四半期GDP
11/18 (TUE)	
11/19 (WED)	日本9月機械受注／10月貿易収支
11/20 (THU)	台湾10月輸出受注、米国10月中古住宅販売／11月フィラデルフィア連銀業況指数
11/21 (FRI)	日本10月東京都区部CPI／11月S&P製造業PMI、米国11月S&P製造業PMI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。